

# 九州産業大学学生による講義「健康科学」の評価

川崎 晃一・實藤 美帆

## 1. はじめに

平成12年3月まで勤務していた九州大学では、平成10年度前期から全学共通教育のすべての授業科目について、学生による授業評価を実施してきた<sup>1)</sup>。また筆者らが所属していた九州大学健康科学センターでは、平成8年度から独自の方法で「健康科学」の講義（応用健康科学、健康心理学、など）に対して学生による授業評価を行ってきた<sup>2,3)</sup>。

平成12年4月に九州産業大学へ赴任して、経営学部、経済学部、国際文化学部、芸術学部の4学部の学生に対して講義科目の呼称は異なるが、一般教養科目（選択科目）であるいわゆる「健康科学」の講義を半期12～13コマ、通年ではその倍のコマ数を担当することになった。不馴れなこともあってこの1年間の講義はかなりの苦勞を伴った。講義科目は選択であり、また国家試験や資格試験等に直接関わる内容でもない。その上、人間の一生の中で最も罹病率が低い20歳前後の青年男女<sup>4)</sup>に、健康の大切さを理解させることは至難のわざであった。

そこで、[I]授業開始にあたって、いくつ

かの選択科目の中から「健康科学」を選択した学生にその動機（目的）を尋ね、また[II]前期の講義の最後の日、今後の講義の参考にするため、講義の形式や内容等に対する学生の講義の評価と講義に対する学生の心構え等の自己評価を問うアンケート調査を行った。その評価を参考にして、[III]後期の講義の形式や内容を改善し、後期講義の最後の日にも再度ほぼ同じ設問のアンケート調査を行った。ここではこれら3回のアンケート調査を集計して、その概況を報告する。

## 2. 対象と方法

### I. アンケート調査 [I]

#### 1) 対象

経営学部、経済学部、国際文化学部、芸術学部で前期講義を履修登録した学生588名（男子：432名、女子156名）を対象とした。そのうち新生は288名（49.0%）、2～4年生は300名（51.0%）であった。その中で350名（59.5%）がアンケート調査[I]に解答した。この調査は出席カードを兼ねたので、記名調査となった。

経営学部は4月の授業開始時は415名が履修登録をしていたが、多人数のため途中からクラスを分割したので、他の教官が講義担当となった同学部産業経営学科の193名は調査〔I〕の集計から除いた。

## 2) 方法

新学期開始直後に、多数の選択必修の講義科目の中から、学部によって講義呼称は異なるが、健康学A（経済学部、国際文化学部）、健康管理学（経営学部）、あるいは健康管理学特講（芸術学部）（これらを総称して以後「健康科学」と称す）を選択した動機（目的）について記述方式で尋ねた。

## II. アンケート調査〔II〕

### 1) 対象

同じく4学部で前期講義を履修登録した学生588名（男子：432名、女子156名）を対象とした。このうち43名は前期すべての講義を欠席していたので対象から除いた。対象者545名中389名（71.4%）が調査〔II〕に解答した。そのうち留学生30名にも同様のアンケート用紙を配付した。

### 2) 方法

前期授業の最終日に別紙（資料1）のアンケート用紙を配付した。学部、性別、入学年度のみを記載し、無記名で回答してもらった。アンケートの内容は、

#### （1）留学生のみへの質問

日本語および講義内容の理解度を、「よ

く分かった（1点）」「半分位分かった（2点）」「余り分からなかった（3点）」の3段階に分けて尋ねた（資料1参照）

### （2）アンケート調査

アンケート調査〔II〕は、九大健康科学センターで過去に行ってきたものとはほとんど同じ設問<sup>2,3)</sup>を用いたが、一部変更したり追加して作成した。“どちらでもない”という曖昧な解答を避けるために、資料1に示すような21の質問項目は選択肢を「非常にそう思う（4点）」「そう思う（3点）」「そう思わない（2点）」「非常にそう思わない（1点）」の4つとした。設問22)の出席回数は自己申告とした。また、前期で印象に残った講義やよかった講義があった場合は、講義のテーマを3つまで記載する欄を設けた。さらに、後期で受けた講義テーマがあれば、同様に3つまでの記載欄を設けた。

評価内容をより具体的に表現できるように、（3）～（5）の設問を設けた（資料1参照）。

#### （3）この講義を履修してよかったこと

資料1に示すように、「その他」を含めて5つの項目を設けて、複数回等を可能とした。

#### （4）教官に要望したいこと

資料1に示すように、「その他」を含めて8つの項目を設けて、複数回等を可能とした。

（5）教官に対して提言したいことやメッセージがあれば、自由に記述できる欄を

設けた。

### III. アンケート調査 [III]

#### 1) 対 象

同じく4学部で後期講義を履修登録した学生は522名(男子:362名、女子160名)であった。このうち104名は後期すべての講義を欠席していたので、対象から除き、418名中284名(67.9%)が調査[III]に解答した。そのうち留学生15名にも同一アンケート用紙を配付した。

#### 2) 方 法

後期授業の最終日にアンケート調査[II](資料1)とほとんど同じアンケート用紙を配付した。学部、性別、入学年度のみを記載し、無記名で回答してもらった。

(1) 留学生のみへの質問、(2) アンケート調査(22項目)、(3) 「健康科学」の講義を履修してよかったこと、および(4) 教官に要望したいこと、についてアンケート調査[II]とほぼ同じ設問を行った(資

料1参照)。また、(5) 後期の講義項目を列挙して印象に残った、あるいは良かった講義テーマを3項目以内で選択してもらった。最後にアンケート調査[II]と同様に、教官に対してとくに伝えたいメッセージがあれば、自由に記述できる欄を設けた。

### IV. 集計方法

アンケート調査[II][III]のいずれも、4つの選択肢を集計してそれぞれの頻度をパーセント(%)で表示した。また4段階の評価をそのまま点数として集計し、平均値±標準偏差(SD)で表わした。

今回は性別、学年別、学部別、あるいは出席率別等の集計は行わず、全対象者の結果のみを記述し、とくに統計的に詳細な分析やクロス集計等は行わなかった。

### 3. 結 果

#### I. アンケート調査 [I]

記述式であったために内容が多岐にわたったので、共通した記述をまとめて表1に示し

表1. アンケート調査 [I] のまとめ

科目選択の動機(目的)	解答数	(%)*
1) 自分や家族の現在あるいは将来のために、健康に関する知識を学びたい .....	263	(75.1)
2) 健康や健康管理に興味があった .....	60	(17.1)
3) 授業内容に興味があった .....	52	(14.9)
4) 単位のため .....	46	(13.1)
5) 時間割の関係でこの時間帯が空いていた .....	22	(6.3)
6) その他 .....	21	(6.0)

\* (%)は解答学生数350名に対する割合。

複数の選択が可能であったため、解答総数は解答学生数を上回った。

た。複数の動機（目的）を記述した学生もいた。解答数は延べ464名となった。

動機は表1に示すように大きく5項目に分けられた。最も多かった動機は、「健康に関する知識を学びたい」で、75%を占めた。その内容は、「エイズについて知りたい」、「一人暮らしだから」、「応急処置を学びたい」、「疾病について知りたい」、などであった。2位は「健康や健康管理に興味があった」で、17%の学生が選択動機として挙げていた。3位は「履修ガイドに興味があった」、「先生の考え方に興味があった」、「昨年先生の講演を聞いて選

択した」などで約15%を占めた。4位は「単位が取りやすそう」、「教職課程で必須」、「単位を増やすため」、などであった。また、その他の中には「スポーツをしているから」、「友人・先輩に勧められた」、「今までなかった授業だから」、「自分で勉強するのは難しいから」、「高校時代に十分教わっていないから」、「実技より面白いから」、「体育が苦手だから」、などがあった。

## II. アンケート調査 [II]

### 1) 留学生のみへの質問に対する答え

表2. アンケート調査 [II] [III] の結果 (%表示) — その1 —

質問番号	質問内容 (文章を簡略化)	アンケート [II] (前期)			アンケート [III] (後期)				
(1)	留学生対象者数 (名)	30			15				
	選択肢*	1	2	3	1	2	3		
1)	日本語はよく理解できた…	33.3	63.3	3.3	40.0	60.0	0		
2)	講義内容はよく理解できた…	17.9	71.4	10.7	53.3	46.7	0		
(2)	全対象者数 (名)	389			284				
	選択肢**	4	3	2	1	4	3	2	1
1)	講義内容が伝わるため…	38.9	54.9	5.4	0.8	47.3	49.5	2.5	0.7
2)	講義の準備は…	31.9	49.2	14.8	4.1	34.5	53.2	10.1	2.2
3)	配布資料は役に立ったか…	41.2	54.6	3.6	0.5	46.3	51.2	2.1	0.4
4)	講義手順などは適切か…	24.7	67.5	7.5	0.3	29.8	63.5	6.4	0.4
5)	理解させるための努力…	42.0	51.8	5.7	0.5	48.6	48.9	2.1	0.4
6)	興味をひきおこす努力…	33.1	51.7	14.0	1.3	44.7	45.0	8.5	1.8
7)	講義形式の是非…	34.1	53.7	10.6	1.6	37.6	53.5	7.1	1.8
8)	教官の応接姿勢…	39.5	52.7	6.8	1.0	37.5	56.4	5.4	0.7
9)	受講生に対する配慮…	32.9	53.8	12.3	1.0	36.9	53.0	9.3	0.7
10)	講義内容の満足度…	24.4	62.7	12.2	0.8	32.7	61.6	5.7	0.0
11)	新しい角度からの講義内容…	32.7	47.3	18.2	1.8	43.1	46.0	10.1	0.7
12)	新しい視点から…	31.6	48.7	18.9	0.8	43.4	45.9	10.0	0.7
13)	自分で色々考えることが増えた…	18.8	53.8	25.3	2.1	28.3	50.9	19.0	1.8
14)	家族や友人と講義テーマについて…	14.7	37.9	36.1	11.3	17.7	44.7	29.4	8.2
15)	講義の理解、習得できたか…	16.7	70.2	12.8	0.3	17.2	71.2	10.6	1.1
16)	講義は役に立ちましたか…	37.6	57.8	4.1	0.5	37.9	58.2	3.9	0.0
17)	講義に積極的な気持ちで出席…	28.4	51.3	17.2	3.1	24.2	53.7	19.6	2.5
18)	講義中に指名するのは良いか…	7.3	26.5	48.1	18.2	6.8	19.4	54.8	19.0
19)	講義を理解するために努力したか…	5.6	43.7	45.0	5.8	9.9	48.4	38.5	3.3
20)	半分以上の出席で試験が受けられる…	15.3	26.2	41.0	17.4	17.1	28.1	42.0	12.8
21)	後輩のために同じような講義を期待…	37.0	54.3	8.0	0.8	43.1	52.0	3.9	1.1

\* 1:よく分かった、2:半分位分かった、3:余り分からなかった

\*\* 4:非常にそう思う、3:そう思う、2:そう思わない、1:全然そう思わない

(1) 日本語がわかったか、の質問で、30名中10名は「よく分かった」、19名は「半分位分かった」と答えた。

(2) 講義内容の理解度は、5名が「よく分かった」、20名が「半分位分かった」、3名が「よく分からなかった」と答えた。

## 2) 21項目の設問に対する答え

それぞれの設問に対する4選択肢の比率をまとめて表2に示した。また、評価点をそのまま平均して講義の評価として、表3にまとめた。4段階評価であるため、全員が「そう思う」とした場合の点数は3点に

なるので、3点以上の得点は評価が高いと考えてよい。

21項目のうち最初の1)から9)までは教育形式について、10)から21)は教育内容および講義に触発されての行動変容についての項目も含まれている。また、22)で出席回数を自己申告させた。

## (1) 教育形式についての評価

9項目のうち「非常にそう思う」または「そう思う」と答えた者の割合は、表2に示すようにいずれも高く、3)「配付資料が役立った」の95.8%が最高で、2)

表3. アンケート調査 [II] [III] の結果 - その2 -

質問番号	質問内容 (文章を簡略化)	アンケート [II] (前期)		アンケート [III] (後期)	
		平均値*	標準偏差	平均値*	標準偏差
(1) 留学生対象者数 (名)		30		15	
		平均値*	標準偏差	平均値*	標準偏差
1)	日本語はよく理解できた…	1.70	0.53	1.60	0.51
2)	講義内容はよく理解できた…	1.93	0.54	1.47	0.52
(2) 全対象者数 (名)		389		284	
		平均値**	標準偏差	平均値**	標準偏差
1)	講義内容が伝わるため…	3.32	0.61	3.43	0.58
2)	講義の準備は…	3.09	0.79	3.20	0.70
3)	配布資料は役に立ったか…	3.37	0.58	3.43	0.56
4)	講義手順などは適切か…	3.17	0.55	3.23	0.57
5)	理解させるための努力…	3.35	0.61	3.46	0.56
6)	興味をひきおこす努力…	3.17	0.70	3.33	0.71
7)	講義形式の是非…	3.20	0.68	3.27	0.67
8)	教官の応接姿勢…	3.31	0.64	3.31	0.60
9)	受講生に対する配慮…	3.19	0.68	3.26	0.65
10)	講義内容の満足度…	3.11	0.62	3.27	0.56
11)	新しい角度からの講義内容…	3.11	0.76	3.32	0.68
12)	新しい視点から…	3.11	0.72	3.32	0.68
13)	自分で色々考えることが増えた…	2.89	0.72	3.06	0.74
14)	家族や友人と講義テーマについて…	2.56	0.88	2.72	0.85
15)	講義の理解、習得できたか…	3.03	0.55	3.04	0.57
16)	講義は役に立ちましたか…	3.32	0.58	3.34	0.55
17)	講義に積極的な気持ちで出席…	3.05	0.76	3.00	0.73
18)	講義中に指名するのは良いか…	2.23	0.83	2.14	0.80
19)	講義を理解するために努力したか…	2.49	0.69	2.65	0.70
20)	半分以上の出席で試験が受けられる…	2.39	0.95	2.49	0.92
21)	後輩のために同じような講義を期待…	3.27	0.64	3.37	0.61

\* 「よく分かった」1点、「半分位分かった」2点、「余り分からなかった」3点、で計算した値

\*\* 「非常にそう思う」4点、「そう思う」3点、「そう思わない」2点、「全然そう思わない」1点、で計算した値

「講義の準備状況」の81.1%が最も低い評価であった。

評価点は、3)「配布資料が役立った」の3.37が最も高く、2)「講義の準備状況」は3.09で最も低い評価点であった。しかしいずれも3.0以上で、教育形式に対する学生の評価は極めて高かったといえる。

## (2) 教育内容について

(i). 10) から21) までの12項目の中で、最も評価点が高かったのは、16)「講義は役に立った」であり、95.4% (評価点：3.32) の学生が「非常にそう思う」または「そう思う」と答えた。次いで、21)「後輩のために次年度以降も開講を望む」が91.3% (3.27)、10)「講義内容に一応満足した」が87.1% (3.11)、15)「講義をよく理解、修得できた」が86.9% (3.03)、12)「『アツそうか』『なるほど』といった新しい視点から物事を発想したり思考する体験がもてた」が80.3% (3.11)であった。一方、18)「講義中の指名はしたほうがよい」は33.8% (2.23)、20)「半分以上の出席で受験資格ありは甘すぎる」は41.5% (2.39)、19)「講義を理解・修得するために何か努力や工夫をした」は49.3% (2.49) などで評価点は低かった。

(ii). 22)の設問で調査した出席率(自己申告)は表には示さなかったが、全講義回数12回中、平均(±SD)は9.7(±2.4)回であった。ちなみに、新入生だけでは10.0(±2.4)回で、2年生以上は9.4(±

2.3)回に低下した。また、男子学生より女子学生の出席がよかった(9.4±2.5 vs. 10.4±2.0回)。

(iii). 23)の設問で、印象に残った、あるいはよかった講義テーマについて集計した。回答者数は388名で、3テーマまでの複数回答を認めたが、42%が3テーマ、24%が2テーマを選択しており、19%が無記入であった。以下に多かったテーマ名を列記する。( )内は回答数と全体に対する頻度(%)を表わす。

①エイズ・性感染症(249名：64.2%)、②喫煙(154名：39.7%)、③食生活(89名：22.9%)、④アルコール(83名：21.4%)、⑤身体症状(病気一般)(79名：20.4%)、⑥応急処置(68名)、⑦運動(38名)⑧ネパール(17名)、⑨肥満(15名)、⑩総論：健康とは(8名)の順であった。回答の中には、「すべてよかった」、「医者のかかり方が参考になった」、などのコメントもみられた。

(iv). 24)の設問で、後期で聴講したいテーマについて質問した。簡単にまとめると、①広く疾病に関するもの(88名)、②栄養・食事に関するもの(35名)、③体の仕組みに関するもの(25名)、④ストレス、心の病気など(22名)、⑤嗜好品(20名)などであった。この設問は後期受講しない学生は答えていないと思われるので、回答数は少なかった。

## 3) この講義を履修してよかったこと (設問内容は資料1参照)

表4の上段に示すように、(1)授業内容に満足：162名 (41.8%)、(2)教官の熱意が伝わってきた：165名 (42.5%)、(3)健康に対して前向きな姿勢で考えるようになった：268名 (69.1%)、(4)勉学に対する意欲がわいた：33名 (8.5%)、(5)その他：19名 (4.9%)であった。「その他」の項は自由に記述してよい欄であり、数は少なかったが様々なコメントがあった。ここでは紙面の都合で省略する。

## 4) 教官に要望したいこと (資料1参照)

表4の下段に示すように、(1)満足したので特に要望なし：121名 (31.2%)、(2)授業内容のテーマを明確にして欲しい：20名 (5.2%)、(3)授業がやさしすぎた：16名 (4.1%)、(4)授業が難しすぎた：48名 (12.4%)、(5)指名して欲しい：17名 (4.4%)、(6)スライド・OHP・ビデオなどの機器を使って欲しい：198名 (51.0%)、(7)板書をもう少し読みやすく：66名 (17.0%)、(8)その他：31名 (8.0%)であった。

スライド・OHP・ビデオなどの機器を使って欲しい：198名 (51.0%)、(7)板書をもう少し読みやすく：66名 (17.0%)、(8)その他：31名 (8.0%)であった。

## III. アンケート調査 [III]

## 1) 留学生のみへの質問に対する結果

(1) 日本語がわかったか、の質問で、15名中6名は「よく分かった」、9名は「半分位分かった」と答え、「あまり分からなかった」ものはいなかった。

(2) 講義内容の理解度は、8名が「よく分かった」、7名が「半分位分かった」と答え、「よく分からなかった」ものはいなかった。

## 2) 21項目の設問に対する結果

それぞれの設問に対する4選択肢の比率

表4. アンケート調査 [II] [III] の結果 - その3 -

質問番号	質問内容 (文章を簡略化)	アンケート [II] (前期)		アンケート [III] (後期)	
		人数	%	人数	%
3.	この講義を履修してよかったと思うことは?				
1	授業内容に満足した…	162	41.8	124	43.7
2	教官の教育の熱意が伝わってきた…	165	42.5	120	42.3
3	健康に対して前向きな姿勢…	268	69.1	195	68.7
4	勉学に対する意欲がわいた…	33	8.5	21	7.4
5	その他 (* )	19	4.9	18	6.3
4.	あなたが教官に要望したいことは?				
1	満足したのでとくに要望はない…	121	31.2	124	43.7
2	授業内容のテーマを明確に…	20	5.2	10	3.5
3	授業のレベルをあげてほしい…	16	4.1	10	3.5
4	授業をもっとわかりやすくしてほしい…	48	12.4	32	11.3
5	授業中にどんどん指名してほしい…	17	4.4	8	2.8
6	スライド、OHP、ビデオの使用…	198	51.0	101	35.6
7	もう少し読みやすく板書してほしい…	66	17.0	45	15.8
8	その他 (* )	31	8.0	13	4.6

複数回答可 \*この欄は自由に記述可能とした。

ならびに評価点をアンケート調査〔II〕の結果と同様にまとめて表2、3に併記した。アンケート調査〔II〕と同様に、21項目のうち最初の1)から9)までは教育形式について、10)から21)は教育内容および講義に触発されての行動変容についての項目も含めた。また、設問22)は出席率を4区分(75%以上、50%以上、30%以上、30%未満)に分けて自己申告させた。

### (1) 教育形式についての評価

9項目のうち「非常にそう思う」または「そう思う」と答えた者の割合は表2に示すように、3)「配付資料が役立った」と5)「理解させるために努力した」がいずれも97.5%で最も高く、2)「講義の準備状況」の87.7%が最も低い評価であった。

評価点は、5)「理解させるために努力した」が3.46で最も高く、2)「講義の準備状況」は3.20で最も低い評価点であったが、9項目のいずれも高い評価であった。

### (2) 教育内容について

(i). 10)から21)までの12項目の中で、最も評価点が高かったのは、16)「講義は役に立った」であり、96.1%(評価点:3.34)の学生が「非常にそう思う」または「そう思う」と答えた。次いで、21)「後輩のために次年度以降も開講を望む」が95.1%(3.37)、10)「講義内容に一応満足した」が94.3%(3.27)、12)「『アツそうか』『なるほど』といった新しい視

点から物事を発想したり思考する体験がもてた」が89.3%(3.32)、11)「新しい角度からの講義内容」が89.1%(3.32)であった。

一方、18)「講義中の指名はしたほうがよい」は26.2%(2.14)、20)「半分以上の出席で受験資格ありは甘すぎる」は45.2%(2.49)、19)「講義を理解・修得するために何か努力や工夫をした」は58.3%(2.65)などは評価点が低かった。

(ii). 設問22)の出席率(自己申告)は表には示していないが、75%以上の出席が69.9%、50%以上は26.0%、30%以上は3.3%、30%未満の学生は0.8%であった。

### 3) この講義を履修してよかったこと(設問内容は資料1参照)

表4の上段に示すように、(1)授業内容に満足:124名(43.7%)、(2)教官の熱意が伝わってきた:120名(42.3%)、(3)健康に対して前向きの姿勢で考えるようになった:195名(68.7%)、(4)勉学に対する意欲がわいた:21名(7.4%)、(5)その他:18名(6.3%)であった。この項目は自由に記述してよい欄で、数は少なかったが、学生が記述したコメントを列記すると[( )内は人数]、(1)いろいろな知識が増え、生活態度も変えるよう努力するようになった、生活していくうえでとても役立った(10名)(2)面白くて授業に新鮮さを感じた、新しい分野が勉強できた(4名)(3)友人と食事の balan



スなどについて話すようになった(2名)

(4)その他、「履修していないが、来年度はしたい」「タバコをやめようと思った」などがあった。

4) 教官に要望したいこと(設問内容は資料1参照)

表4下段に示すように、(1)満足したので特に要望なし:124名(43.7%)、(2)授業内容のテーマを明確にして欲しい:10名(3.5%)、(3)授業がやさしすぎた:10名(3.5%)、(4)授業が難しすぎた:32名(11.3%)、(5)指名して欲しい:8名(2.8%)、(6)スライド・OHP・ビデオなどの機器を使って欲しい:101名(35.6%)、(7)板書をもう少し読みやすく:45名(15.8%)、(8)その他:13名(4.6%)であった。この中には、前期と同様、話すスピードが早い、黒板の消し方が早い、専門語をやさしく解説して欲しい、など筆者の欠点を鋭く指摘した意見も少数ながらみられた。また、私語をもっと厳しく取り締まって欲しい、極端に遅くくる学生は厳重に取り締めて欲しい、といった学生自身に対する厳しい注文もあった。

5) 自由に記述してもらった後期講義に対するコメントや感想は前期のそれより多数に上った。主な感想をまとめてその一部を資料2に掲載した。

#### 4. 考察

大学生の年齢層は一生の中で最も健康な状態にある<sup>4)</sup>。佐藤らの報告でも、九州産業大学学生の意識調査の中で、体力に自信のある学生は勿論、体力に不安のある学生でも約8割は「大いに健康」、または「まあ健康」と答えている<sup>5)</sup>。にもかかわらず、8割近くの学生が健康に関する知識を学びたいと思い、また健康に関心を持っていることは、今後『健康教育』に関する認識を新たにする必要がある。ただ、アンケートに答えた学生は、多くの選択科目の中からいわゆる「健康科学」の講義を選択したわけで、そこにはすでにバイアスがかかっているため、この数字がそのまま当大学の学生の「健康教育」に関する考え方や認識の程度を表しているとはいえない。

筆者は、健康教育は若い年齢層から始めるべきである、という考えを持って九州産業大学に赴任した。いずれの講義も開始時刻前には教室に到着し、毎回資料を配付した。原則として講義は5分過ぎると開始して、できるだけ早目に、出来れば10分前には終わるように心がけた。筆者の医学部時代の恩師であった大阪大学元総長故山村雄一先生は「集中して聴講できるのはせいぜい40分だ」といって、90分授業を半分の45分で終わられていた。筆者はそこまでは出来なかったが、出来るだけ定刻に講義を開始して早く終わることをモットーにしてきた。しかし、一生のうちで最も健康な年齢層に「健康の大切さ」を講義し、内容を理解させることは至難の業であることが講義してみてわかった。本当に彼らがこの

ような講義を望んでいるのだろうか？講義を終えて研究室に戻るときのみならず、講義に行くときにすでに自問自答していた。しかし教官に熱意がなければ学生はすぐに見抜くに違いないので、カラ元気を出して学生と対峙する。そして、手を替え品を替えて学生が興味を持って講義を聴けるように工夫してきた。筆者にとってこのような長期に及ぶ講義は‘初体験’であり、「如何に学生に興味を持たせるか」という点で、講義は学生との根気くらべであることを痛切に感じて、疲労困憊した。

前期アンケート調査の結果に基づいて、後期の講義には学生の意見を出来るだけ採り入れた。すなわち、後期の講義内容を一覧表にして最初の講義で配付し、それに必要な資料をB4判で2～4頁作成して毎回の講義時に受講生に配付した。資料には新聞記事も多く採用した。また、ミニテストを3回行い、新聞のコラム（エッセイ）に対する感想文を1回提出してもらった。血圧の話では実際に5～6名の学生の血圧を体位を変えて測定し、それに基づいて講義を行ったりもした。その結果アンケート（1）から（16）までの16項目の教育形式および教育内容の評価はすべて前期より高い値となった。しかし、すべての学生が前期・後期の両方を聴講して比較したわけではないので、直ちにこれらの数値から学生の評価が高くなったとは言い難いが、前期のアンケート調査結果を参考にして自分自身で改善した点を学生はある程度評価してくれたと思う。ただ前期はじめの頃は視覚に訴えるためスライドを多用したが、準備にかな

りのエネルギー（時間と労力）を要するので、後期はあらかじめスライドを使用せずに資料中心の講義を行う旨通告していた。しかし、後期でも要望が強かった。資料との併用が可能な講義を学生は望んでいるようであった。

後期の講義で好評だったのは、嗜好品（タバコ・アルコールなど）、睡眠（生体のリズムの講義の一部）、男と女のからだ、ストレスと健康、薬物の話（生体のリズムの講義の一部）などで、血圧やメンタルヘルス、環境ホルモンなどに対する興味は少なかった。前期、後期を通じて感じられたことは、疾病から最も縁遠い大学生層においても、特に疾病に関しては広く興味を持っていたことは興味深かった。このことは、「健康科学」という科目を選択した動機でもその頻度が大きかったことと矛盾しなかった。生活習慣病の若年化傾向が急速に進んでいる現実を考えると、若年層からの健康教育は極めて重要な課題であることを改めて認識した。

一方、何故わずか90分（正味75～80分）の講義の間、私語をしないでおれないのか、何故ある程度時間を守って出席しないのか、今の学生には教官（或いは他人）の熱意というものが伝わらないのであろうか、と講義を進めていくうちに非常に悲観的になってくることがしばしばあった。これは筆者の勝手な思い込みで、学生にとってはそのような‘熱意’などかえって迷惑なのだろうか？しかし少数の学生が熱心に聴講しているのに勇気づけられ、いつかは、もっと多くの学生に筆者の熱意は伝わるはずだ、という信念をもって何と

か‘キレズ’に1年間の講義を終えることが出来た。これまで、職務上長年に渡って専門職や中高年者に対する講演や講義を多数行ってきたが、この1年間若者を対象にした長期にわたる一貫した講義は、筆者にとって非常によい経験であったと思っている。

#### 5. おわりに

教育職専門に徹した初年度は、自分では最大限の努力をしたつもりでも、経験不足と不馴れのため学生サイドからみれば満足の行く講義でなかった点多々あったに違いない。講義期間中、ほとんど毎週末を使って時間をかけて作成した配布資料でも、必ずしも全員が満足してくれてはいなかった。しかし今回のアンケート調査の結果を見る限り、1年間の苦労が無駄ではなく、多くの学生には何か得るものがあった、と確信している。

本来ならば、少なくとも75%以上は出席し、真面目に講義を受けた学生のみを対象にした調査の集計を行うべきであったかも知れないが、今回は1回でも筆者の講義を受けた学生のすべてを対象に、彼らを感じた講義の印象を真摯に受け止めるつもりで集計した。長期にわたる初体験の講義を終え、しかも善かれ悪しかれ新鮮な印象が鮮明に残っているこの時期に、自分自身のためにも記録にとどめておきたいと思い、大まかな集計ではあるがここに報告した。

#### 6. 文献

- 1) 全学共通教育自己点検・評価報告書, 九州大学全学共通教育自己点検・評価専門委員会, 九州大学大学教育研究センター編, 2000, Pp.1-32.
- 2) 健康科学第二部門の講義評価, 健康科学センター年報, 20:29-35, 1998.
- 3) 健康科学第二部門の講義評価, 健康科学センター年報, 22:85-91, 2000.
- 4) 受療状況, 国民衛生の動向, 46(9):81, 1999.
- 5) 佐藤誠, 福田馨:生涯スポーツの意識に関する研究, 健康・スポーツ科学研究, 2:1-27, 2000.

**[資料 1]**

このアンケートは、受講生の諸君から意見を聞いて今後より望ましい講義を行なっていくためのものです。匿名ですから、率直な意見を期待します。諸君の成績評価とは一切関係ありません。結果は私個人にとどめることを前提に集計しますが、公表することもあります。しかし諸君に迷惑がかかるようなことは一切致しません。

**【出席カード】**

氏名 ( ) 学年 ( )  
 学籍番号 ( )  
 期日 月 日 曜 時限

( ) 学部、男・女、平成 ( ) 年度入学

1. 留学生のみへの質問：日本語は（よく分かった、半分位分かった、余り分からなかった）  
 講義内容は（よく分かった、半分位分かった、余り分からなかった）
2. 前期受講後の感想、コメントなど（当てはまる数字を○で囲む）

	そ う 思 う	非 常 に そ う 思 う	そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い 全 然
1) 講義内容が伝わるために、話し方（声の大きさやスピードなど） などが配慮されていましたが ……………	4	3	2	1
2) 講義の準備をきちんとしていましたか ……………	4	3	2	1
3) 配布した資料は役に立ちましたか ……………	4	3	2	1
4) 講義手順（講義内容の展開）などは適切でしたか ……………	4	3	2	1
5) 学生に理解させるための努力をしていましたか ……………	4	3	2	1
6) 学生に興味をひきおこす努力をしていましたか ……………	4	3	2	1
7) 講義の形式は今のままでよいですか ……………	4	3	2	1
8) 学生に対する教官の応接の姿勢は適切でしたか ……………	4	3	2	1
9) 講義に集中して受講できるように、教官は配慮しましたか （たとえば私語などに対する注意、など） ……………	4	3	2	1
10) 科目名やシラバス等で講義内容に期待したことが一応満足でき ましたか ……………	4	3	2	1
11) 高校までと違った新しい角度からの講義内容でしたか ……………	4	3	2	1
12) 「アッそうか」「なるほど」といった、新しい視点から物事を発 想したり思考したりする体験がもてましたか ……………	4	3	2	1
13) 講義のあとで、その問題を自分で色々考えることが増えました か ……………	4	3	2	1
14) 講義に触発されて家族や友人などと講義テーマに関連すること を話題にすることがありましたか ……………	4	3	2	1
15) 前期の講義をある程度理解、修得できましたか ……………	4	3	2	1
16) 講義は役に立ちましたか ……………	4	3	2	1
17) 講義に積極的な気持ちで出席しましたか ……………	4	3	2	1
18) 講義中に個人を指名して質問等を受けた方が緊張感持続、いね むり防止などのために良いと思いますか ……………	4	3	2	1
19) あなたは講義を理解、修得するために何らかの努力や工夫をし ましたか ……………	4	3	2	1
20) 半分以上の出席があれば試験が受けられるというのは甘すぎる と思いますか ……………	4	3	2	1
21) 次年度以降、後輩のために同じような講義内容の科目の開講を 期待しますか ……………	4	3	2	1
22) あなたのこの講義の出席率はどの程度でしたか ……………	12回講義のうち ( ) 回出席した			
23) 前期講義で印象に残った講義、あるいは良かった講義のテーマがあれば3つまで記述して下さい。 (1. ) (2. ) (3. )				
24) 後期の講義で聴講したいテーマがあれば、テーマ名を3つまで記述して下さい。 (1. ) (2. ) (3. )				



## [資料 2]

後期メッセージ（類似のコメントをまとめて主なものを掲載した。しかし苦情や意見はすべて掲載した）

- ・健康の知識がいろいろと勉強できたのでこれから先きっと役に立つと思います。この講義をとって本当に良かった。
- ・健康のことは、少しは興味をもってこの講義を受けてきました。1年間受けてきて、講義の内容がとてもわかりやすかったの  
で楽しく受けてきたと思います。
- ・通年を通してとても分かりやすかったです。たぶん今までうけてきた授業の中で一番分かりやすかったような気がします。先生  
の熱意もたいへん伝わってきたと思います。
- ・自分が受講している講義の中で一番楽しみでした。1年間あつという間におわってしまったような気がします。
- ・テーマが明確で分かりやすかったです。細かい解説でなるほどと思う事がたくさんありました。健康に対する考え方も変わり、  
いろいろな事に気をつける様になりました。
- ・講義を受けてから、自分の健康面に対する考えが変わりました。先生の講義は好きでした。いろいろな面でアドバイスをうけに  
行くといった感じで毎回授業を受けていました。
- ・手元にプリントがあるので確認、復習もやり易いのでよかったです。大変満足しています。
- ・すごく有意義な時間を過ごせた。1年間講義お疲れ様でした。
- ・毎回資料があり、それを見ながら説明していただいたので、大変わかりやすかったです。ビデオなどもあったら、もっとよかつ  
たのかなぁとも思います。今まで学んだ健康学より内容が深く、興味深かったです。
- ・授業で配布される資料の中で、本や新聞記事からとりあげているものは非常に良かったと思います。特に今日の授業の資料の「人  
生の暗号」はおもしろくてためになりました。前期専門的なことが多かった気がします、後期はわかりやすくてよかったです。
- ・先生の熱意が伝わってきたおかげで、健康に対して前向きに考えられるようになった。
- ・前期はとても楽しくわかりやすかったのですが、後期になってからテーマが次々と変わり、内容も難しく、あまり理解するこ  
とができませんでした。こういう状態なのに試験の持ち込みなしとかだったらかなり大変だと思います。
- ・健康について考えたことはあっても、ほとんどそれについての知識はなかったのですが、この講義を受講したことで、少しは自  
分の体のことについて分かった気がします。
- ・専門用語をなくしてほしい。先生が知っていて当たり前と思うことでも、素人の私たちには全く知らない事もあるのでそこをわ  
かってほしかった。
- ・最後に臓器移植カードとパンフレットが配布されてすごくうれしかったです。興味があったのに、どうすればいいかわからなかつ  
たので。
- ・健康について考える機会が増えた。こういった内容の授業は、学生にとって重要だと感じた。
- ・自分自身の体についてたくさん知ることができた。自分が受けている授業の中で、特に興味もてる講義でした。
- ・健康についてだけでなく人生について考えることも多くありました。最後の授業の「人生の暗号」や産婦人科の先生の話には感  
動しました。私もドナーカードを持ち歩き、もしもの場合、人の役に立てるのなら幸いだと思っています。来年もまたこの講義  
があるのならまたとりたいくらいの内容だったと思います。
- ・1年生で留学生ですけど、3年生になったら先生のゼミや授業をまた受けたい。
- ・大学の講義の中で唯一ためになりました。あと、やかましい人がまだ多いです。大学生はガキっぽいですね。
- ・私は今年履修したすべての科目の中で、この健康学という科目が一番興味をもって、自分から「学びたい」という気持ちがわく  
科目でした。しかし、内容的には前期の方がわかりやすかったです。
- ・タバコはやっぱ体に悪いですね。完全にやめれるよう努力していきたいと思っています。今もほぼ吸わないようにしています。  
スライドとか使ってほしかった。
- ・自分の健康、命、大切にしようと思います。この年代は、無理がきく分、体に相当負担がかかっていると思うし、生活を見直す  
きっかけができました。今では、生活を改善していく努力をしている最中です。
- ・先生は熱い人だと思う。話に力がこもっている。やはり、食生活、喫煙、アルコールなどは関心があったのでおもしろかった。
- ・授業でビデオとか使ってほしかったです。薬物とかエイズに関して経験者の話を流せばもっとリアル味がまし、説得力があったと  
思います。
- ・エイズや性感染症についてももっと詳しくやってほしかった。前期に同テーマがあったがこれは深刻な問題なので耳が痛くなるく  
らい力説してほしい。ただ単に「いけない」とか「体に悪い」とか表面的に言われてもわからない人がいるので少し変わった視  
点から見てみるのも良いと思う。興味深くのちのち記憶にのこる講義にしてほしい。
- ・先生の熱心な態度にも人間として学ぶことが多かった。健康の大切さはこの講義で学んだ最大のテーマです。一生忘れませ  
ん。
- ・妊娠、タバコの害、他では聞くことができない事があり、実際誰もが、興味をもっているような話がたくさんありためになった。  
学んだことを実際に行動に移そうと思い、喫煙をやめました。

## 九州産業大学学生による講義「健康科学」の評価

- ・他の授業とは違って、すごく静かで落ち着いて授業がうけれた。
- ・学校の全生徒が受けるべきだと思います。熱意が感じられない先生、昔話が好きな先生が多い中で、川崎先生の授業はとてもわかりやすく、楽しかったです。
- ・医者という立場からの考えを聞けたことは、いい経験でした。
- ・途中入退者が多かったのを少し厳しくしたらよいと思います。アンケートなど学生の意見を聞いてくれる先生なのでとてもうれしく思いました。
- ・先生の熱意ある授業で、最近、以前僕の中にあった医者の悪いイメージがなくなった。
- ・先生が資料を用意してくれた上に、教え方も非常に上手であったので自分から進んで出席することができたのでよかったです。先生の態度も非常に紳士的でしたが、講義の邪魔をするような人は教室から出してもよかったですのでは？と思う。今年で全体への講義が終了ですが、熱意のある講師が一人減ると思うと残念です。
- ・私は授業に満足しました。先生の授業に私はとても興味があり、講義に集中して取り組みました。ただ、周りの人々の私語が多かったので、そこが少し気が散ったりして悪かったように思います。生徒のことをよく考えてくれているなどとも思いました。
- ・「生体のリズムと健康」は、大学に入ってから不規則になりがちだった私の良いアドバイスになりました。
- ・前期のテストは病欠で受けられなかったが、大変難しかったと聞いたのもう少しそのへんを配慮してほしい。
- ・騒がしい中、みなに健康やその他色々なことを一生懸命教えている姿をみて「すごいな」と思いました。
- ・私語が多くて講義がされにくかったとは思いますが、実にわかりやすく役に立つ講義でした。
- ・最後の講義（人生の暗号：遺伝子の話）は一年を通じて一番印象に残るものでした。
- ・あまり医学的なことを聞くチャンスがないのでよかったです。「なるほど!!」って思うことも多かった。
- ・もう少し一つのテーマを深く掘り下げてよいと思ったが、あまり専門的な内容になると厳しいと思うので、そのあたりは教官の先生にまかせたいと思う。
- ・日常で役に立つような治療の仕方など、自分がドキッとさせられることなどあって楽しかったです。
- ・個人個人にもっと質問させた方がいい。
- ・私は今回、この授業を受けてととても考えさせられる点や感動する事がありました。私は将来、消防官という夢をもっています。その目標へ向かうためのいい勉強にもなりました。「人の命」に対しての考え方もいっそう強いものとなりました。これから自分自身が生きていく中で、この授業の中から教わったことや感じたことを多くの人へ伝えていき、助けていきたいと思っています。必ず消防という職業へつき、先生と同じように人を助けるという人間になりたい。
- ・これから留学生がどんどんこの講義に入るかもしれないと思うから、言葉に対してとくにカタカナに対してきちんと説明してほしい。
- ・黒板に書いた字を古い方から消してほしい。資料は非常に役に立った。
- ・もう少し、見やすく板書してほしい。消すのが速すぎるのでノートに写せません。
- ・もっと出席を厳しくした方がいいと思います。先生の熱意は十分に伝わったので、試験がんばりたいと思います。来年も講義を聞きたかったです。ゼミにぜひ入ってみたいです。
- ・この講義を通じて、健康に対してかなり興味をもちはじめました。帰宅しても、プリントを読み直したりなどして知識も増やすことができました。
- ・あまりおもしろくはなかったが少しはためになったと思う。
- ・私は講義内容には非常に満足している。健康管理をさまざまな観点により追及するといった形式にはただ単位取得以前に、今後、必ず自分自身にとって必要不可欠な事柄ばかりを学ぶことができた気がします。他の専門科目より一番重要な科目といっても過言ではないと思います。
- ・私は人のために行動する人間になりたいと思います。先生のように海外に行きボランティアをやりたいです。
- ・学生側の私語が多かったため、川崎先生は大変授業がやりにくかったように思う。少数の熱心な学生がよい授業を受けられないことを大変残念に思う。
- ・なかなか私が出席しなかったのはすべてにおいてやる気がかけているからであって、先生のせいではありません。この授業楽しかったです。騒いでごめんなさい。
- ・熱心さというより真摯さが伝わるいい授業だったと思います。
- ・私自身はなかったのですが、「相談があればいつでも……」とおっしゃった先生の言葉に気が楽になることができました。
- ・初め数回出席を逃したのが残念なくらい楽しいための講義でした。
- ・内容を学生が興味を示すものにしばっていたのはとても良いと思う。これからも先生にこの健康学を続けてほしいです。
- ・これから社会にでていくにあたって先生からご教授いただいた事をいかして頑張ろうと思います。
- ・プリントの内容の配置の方法がわかりにくかった。